

北海之光

12月号 北海道教区報

祝福されよ 主に信頼する人は

エレミヤ書 17章 7節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

飼い葉桶の灯 ともしび

ルカによる福音書二章一節〜七節

北見聖ヤコブ教会牧師
網走聖ペテロ教会牧師
紋別聖マリヤ教会協働司祭

司祭 フランシスコ

飯野 正行

街中には讚美歌やクリスマス・ソングが流れ、輝くツリーやリースが飾られ、イルミネーションがロマンチックに輝いています。零れるような光の中で、恋人たちはラヴラヴの時を過ごすのだそうです。勿論教会でもクリスマスをお祝いします。イエス様のご降誕をお祝いするのですから、はじめていいと思つています。どうぞ楽しい時を過ごしてください。

ただ、このクリスマスの美しさ・楽しさが、自分とは全く別の世界と感じ、辛いと感じている方々もおられることも覚えていたいと思うのです。家族を失った人、仕事を失った人、失恋した人、食べるにも困っている人、人間関係に苦しんでいる人、病苦の中にいる人、これらの様々な

喪失の中にある人々にとっては、とても辛い時期で、クリスマス喜びを見出すことは難しく、楽しそうに振る舞うことを求められているように、辛く悲しい時期です。

世界で初めてのクリスマスも悲しみに満ちていました。住民登録のためにヨセフとマリアはベツレヘムに行ったのですが、「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」のです。不思議です。ベツレヘムはヨセフの出身地ですから、実家や親類の家が少しはあったはず。それなのに何故宿屋の戸を叩かなければならなかったのか。「小さな村に沢山の人が来るので親類の家に泊まらない状況だつてあるだろうし宿屋だつていっぱいだったのだろう」と考えるかも知れません。でも、セム系に属する

ユダヤ人やアラブ人たちの、ごく自然な感情を覚えます。それはほとんど有り得ないことです。この人たちの特別な家族愛、部族愛を覚えることは大切で、一族の子どもの誕生をととても大切に、長老が自分の部屋を移つてでも、そこで出産を迎えさせます。でもヨセフとマリアにはそれが許されなかった。宿屋にしてもそうで、お腹が大きくなっているマリアを見ながら、二人の「気の毒目に見える」状態を目にしたが何の手立てもとらない。何か大人の事情が流れている気がしてならないのです。「宿屋には彼らの泊まる場所がなかった」直訳は「宿屋には彼らの居場所がなかった」です。何らかの事情で、ヨセフとマリアには、居場所がなかったのです。

聖家族の目の前で、すべての宿屋の戸が荒々しく閉ざされました。イエス様は生まれる前から人々の拒絶に会っています。宿とするために聖家族が通されたのは、貧しき馬小屋。生まれたイエス様が横たえられたのは飼い葉桶。愛

と悲しみに疲れ切った聖家族を、貧しき馬小屋は受け入れ、そこで、イエス様はお生まれになりました。今も、打ちひしがれ、疲れ切った私たちの心の馬小屋に、イエス様は生まれ給うのです。

先日、ホームの子が言いました。「お父さんのお部屋に灯りが点いていると安心して眠れるの。」私は泣きそうになりました。私ほど弱く貧しい器はいないのに。私の部屋の灯りがその子の「心の灯」になっている。ベツレヘムの馬小屋の灯りが心に迫ってくるように私には感じたのです。

コロナも早く落ちつきますようにと祈るばかりです。イエス様は私たちの重荷を担い、安きを賜うためにと来られた神の子です。私たちがあの飼い葉桶に、希望の灯を見るのが出来ますように。愛と悲しみに疲れ切った私たちの心の馬小屋に、今日、イエス様がお生まれくださいますように。

メリー・クリスマス!

日本聖公会北海道教区第八一(定期)

教区会主教告辞



主教 ナタナエル

植松 誠

「教区会開催にあたって」

本日、北海道教区第八一(定期)教区会開催にあたり、ご参集くださいました教役者議員、信徒代議員、教区役員の皆様、またこの教区会のためにご準備くださり、ご奉仕くださいます書記局はじめ教区事務所職員の皆様に深く感謝いたします。さる十一月三日にも臨時教区会がありましたので、短い期間に二回もご足労いただき、重ねて感謝いたします。昨年二月以来の新型コロナウイルス感染症拡大により、教区的な集まり、特に実際に集まって行う行事や礼拝は、長い間、出来ない状況が続きました。今回の教区会は感染対策には十分気を遣って行っていますので、皆様の

ご協力をお願いいたします。今日と明日の二日間、この教区会の上に聖霊の導きが豊かにありますよう祈ります。

「コロナ禍における教区・教会」

昨年の教区会以降、この一年間も、新型コロナウイルス感染は続き、何度か緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、教会の礼拝や行事、活動も大きな影響を受けました。教会によっては公開の礼拝を休止したり、集会や活動の中止や規模縮小を余儀なくされました。また、牧師たちの信徒宅や病院、施設などの訪問もできず、重篤の信徒の最期の看取りや葬儀、洗礼や堅信式、結婚式など通常のよ

うにはできない中、信徒たちもまた教役者たちも、深い葛藤や悩み、悲しみ、あせりなどを感じ続けてきたと思えます。今のところ新型コロナウイルス感染症は下火となっていて、教会は今後平常通りの生活を取り戻していくと思えますが、この約二年間のコロナ禍によって、教会に來られなかった信徒たちをどのようにに教会に呼び戻すか、教会の礼拝や行事、活動などをどのようにに再開させ発展させていくか、また、教会の維持・運営のための財政的な見直しなどが求められていると思えます。これらの問題は、先ずはそれぞれの教会で当たるべきだと思えますが、教区的にも協力して方策を考えていかなければなりません。

コロナ感染は、この冬に第六波が来るとの予想もありま

す。今年三月末で、広谷和文司祭が定年退職されました。これまでのお働きを感謝いたします。今年三月、三浦千晴聖職候補生が神学校を卒業し、四月から教区内で勤務が始まりました。また、今年五月には上平更執事が司祭に按手されたことは大きな喜びでした。また、来年三月末をもって、阿部恵子司祭は定年とされます。これまでの阿部司祭のお働きに対し、この教会会として深い感謝を表明したいと思えます。現在、北海道教区の現役教役者の数は、主教一名、司祭一〇名、聖職候補生一名がおります。教区内二三教会と九つの幼稚園・保育園、ファミリーサポートセンターの牧会宣教は、現役教役者以外にも囑託聖職や退職聖職の皆様のご奉仕の協力がなければ考えられません。藤井八郎司祭、甲斐博邦司祭、内海信武司祭、広谷和文司祭は定年退職後も、囑託としてお働きくださっています。退職司祭の寺本睦夫司祭、大友正幸司祭、横山明光司祭も主

「人事」

人事について申し上げます

日礼拝においてご奉仕くださっています。これらの退職司祭の皆様は深く感謝いたします。今後も教区は教役者が足りない状況が続きます。聖職へ献身する方々が興されま

すように、皆様のお祈りを続けてお願いいたします。

「宣教協働区・伝道教区制・次期主教選挙」

さて、ここ数年の教区会での主教告辞で、私は、主教会が重要課題として協議してきた日本聖公会の再編成についてお話ししてまいりましたが、昨年一〇月に開かれた日本聖公会第六五(定期)総会では、主教会から提案した「宣教協働区・伝道教区制」に関して、日本聖公会法規を一部改正する議案が承認決議されました。それを受けて、北関東教区は次期教区主教を選ぶことをしないで伝道教区になることを決め、五年以内に東京教区との合併、そして新教区設立を目指しています。また、東日本宣教協働区を構成する東京、北関東、東北教区と北

北海道教区は、協働してできる宣教を模索しながら定期的に話し合いを重ねています。さらに、北海道教区は隣の東北教区と共に宣教協働の具体化を考えています。

北海道教区の主教が来年三月末で退職することから、北海道教区として、伝道教区となるのか、または次期主教を選挙するのか、昨年一月から常置委員会、教役者会などで協議してきました。何回かにわたる伝道教区に関する学びと話し合いを経て、教役者会は七月、①植松主教の定年退職に伴い、主教選挙を行うことが適当と考える。②伝道教区を含む教区再編については現時点で行うことは時期尚早と判断し、新主教のもとで信徒を含む全教区的な協議を深めていくことが適切と考える、との合意を得、常置委員会もそれを受けて協議し、

一月三日に臨時教区会を開催して次期主教選挙を実施すると決断しました。これは、北海道教区が教区再編を考慮に入れていないということ

はなく、昨年一〇月から現主教の退職までの短期間で、伝道教区に移行するという重大な事柄に関する結論を出すべきではないということによるもので、先に述べましたように、今後、北海道教区は新主教と共に、教区再編について取り組んでいくということの意味しています。

さる一月三日の主教選挙では、当選者を得ることができたことは大きな喜びでした。今は、当選者の受諾を待っている状況ですが、次期主教の按手・就任までのプロセスに主の豊かなお導きがありま

すよう祈ります。

「稚内聖公会及び厚岸聖オーガスチン教会」

稚内聖公会及び厚岸聖オーガスチン教会は数年前から信徒数が二人以下となり、日本聖公会法規に定める「教会」としての要件を満たさなくなりました。両教会の今後の在り方については常置委員会で数年間検討を重ねてきました。稚内聖公会が日本最北の

教会であり、また厚岸聖オーガスチン教会が日本最東の教会であることも大事なことと考え、この二つの教会を伝道所として残し、今後も宣教の火を灯し続けることにしました。具体的には、今教区会の議案にありますように、稚内聖公会は旭川聖マルコ教会と合併した後、最終的には北海道教区の伝道所とし、厚岸聖

オーガスチン教会は釧路聖パウロ教会と合併した後に、釧路聖パウロ教会の伝道所となります。このために、いろいろご理解、ご協力くださいました旭川聖マルコ教会及び釧路聖パウロ教会の皆様にも深く感謝するとともに、これからも、これら二つの伝道所を用いて、私たちの宣教の働きかけが継続することを祈り願っています。

「宣教」

前述しましたように、これまでの教区会期も、私たちの宣教は新型コロナウイルス感染症拡大によって大きな影響を受けました。しかし、コロナ

禍における宣教は必ずしもすべてがマイナスの結果をもたらしたとは言えないと思います。教会での礼拝やいろいろな活動ができなくなる中で、教会によっては文書活動や、オンラインでの礼拝・行事の配信など、これまでには考えられなかった宣教の形態も始まっています。コロナ禍の中の弱者に目を向けて、そのための働きを始めた教会もあります。このように、長く続く

コロナ禍を経て、私たちは、その中の宣教の可能性を少しずつ学んできたのではないのでしょうか。または、礼拝にいけなかったり、礼拝ができなかったり、訪問や互いの行き来ができないという中で、改めて、教会とは何か、信仰生活とは何か、牧師や信徒の務めは何かという基本を考える機会を与えられたと私は思っています。ポストコロナ

は、以前のような教会生活や宣教に戻ることを目標にするのではなく、新しい教会、新しい宣教への跳躍台になるべく、私たちの信仰の覚醒を促

しているのではないのでしょうか。

私が二五年前に北海道教区主教に就任して以来、言い続けてきたことがあります。それは、信徒が主役となる宣教ということですが、宣教は、上からの号令下、主教や聖職が先頭で錦の御旗を振って、信徒たちがそれに従っていくというようなものではありません。宣教は、まさに、信徒が自分の生活の中で、自分の生きざまの中でキリストの福音を証しすること、そして人々をキリストの愛と交わりにお招きすることです。信徒一人ひとりが、自分の言葉で、イエス様のみ言葉を、愛を、慈しみを語ることです。

「私は福音を生きている」という喜びや希望を伝えることです。牧師任せではなく、教会の長老信徒任せでもなく、私にとつての福音を、自分のつたない言葉で、あるいは言葉にはならない無言の行いで、自分の家族に、友だちに表すことです。日本聖公会が、北海道教区が宣教するとい

う

ことは、この信徒の宣教の集大成を言うのです。

そして、そのような信徒を聖餐やみ言葉で養い、福音を語る信徒に訓練していくのは聖職に与えられている責任であり使命です。そのためには、信徒への積極的な関わりと交わりが必要です。もちろん、聖職が信徒以上に宣教の主役であることは言うまでもありません。その土台となるのは、聖職自身の召命感と福音を生きた喜びであり、それは聖書からの養い、祈り、黙想、そして、自分と同じように聖職への召命を生きた同労の聖職者たちとの協働から、さらに、信徒たちの豊かな信仰や靈性から与えられるお恵みだと思えます。

さらに、宣教の主役となる信徒と聖職のための教育、訓練、癒しのための機会やプログラムを、教区も教会も積極的に講ずることも必要です。大きな計画ではなくて、小さな、また少人数での、多様な宣教の訓練の場を継続的に持つことが大事だと思えます。

数年前に、それぞれの教会が掲げた宣教の夢に向かって、その実現のために、一人ひとりが、教会が、さらに一歩を踏み出したいと思えます。

【最後に】

私は来年三月末で定年退職となります。一九九七年三月、主教に就任してから今日までの二五年、私はこの北海道の地でたくさんのお恵みをいただきました。いろいろなことがありましたが、今、振り返ってみますと、すべてが神様の恵みによって織りなされてきた二五年でした。出会った聖職信徒の皆様、天国に送り出した方たち、心揺さぶられるほどの信仰をその方たちの中に見てきました。私にとってこれほどの大きなお恵みは想像もありませんでした。もちろん、これまで主教として、できなかつたことや皆様のご期待に沿えなかつたこと、さらにお心を傷つけてしまったことも多々あったことを承知しています。それらを今お詫び

しながらも、聖職であること、主教であることは決して自分のなせる業ではなく、ただただ、神のみ手の中に自分を委ねることに尽きるのではないかと、必死でもがいてきてしまった自分を振り返りながら今改めて思います。

これまで、皆様のお祈りの中で、また温かさとお優しさにかけて、またまた主教を務めることができましたことを、そして、何よりも、皆様と共にキリストの福音を生きたこと許されたことを、まずは主に感謝し、そして、皆様にも深く感謝いたします。どうぞ、退職までのあと四カ月余、教区主教のために皆様のお祈りをお願いいたします。

来年四月、北海道教区は新しい主教を迎えます。新しい牧者のもと、北海道教区がますます主の福音を生き、そして北海道に、日本に、世界にキリストの福音を証しし続けることができそうですように祈るとともに、新しい教区会期、主の豊かなみ守りと導きが北海道教区の上に、それぞれの

教会の上に、また、聖職・信徒の皆様の上にありますようお願いいたします。

(二〇二二年二月二三日)

堅信式受領

おめでとう

新札幌聖ニコラス教会

トマス 菊池 翔太

(二月二日)

旭川聖マルコ教会

マルコ 野村 学

アンナ 広谷 さや

(二月二八日)

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

一月二日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司 祭 デイビッド・M・ラング

一九四六年一月一日

伝道師 千葉 今

一九四三年一月二日

伝道師 田澤 廉

一九四五年一月八日

伝道師 エディス・M・ブライアント

一九三四年一月一日

伝道師 遠藤 義三

一九二三年一月二日

伝道師 津田 喜九郎

一九四七年一月三日

司 祭 松島 覚太郎

一九六〇年一月三日

司 祭 八代 欽之允

一九四六年一月七日

伝道師 エディス・C・ペイン

一九四七年一月八日

伝道師 青山 操

一九〇八年一月九日

司 祭 小川 淳

一九〇七年一月二三日

司 祭 松本 正雄

一九七一年一月二六日

司 祭 野坂 保三

一九七五年一月二八日

司 祭 佐々木 忠良

二〇〇五年一月二八日

司 祭 遠藤 栄

一九四四年一月二九日

主 教 フリップ・K・ラフィン

一九二八年一月三〇日



常置委員会報告

第一三回 十一月八日

《協議事項》

- 一、第八一(定期) 教区会に
関する件
- ・十一月二二日(月)～二三
日(火・祝) 開催。
- ・準備状況について確認した。
- 二、四月以降の教役者人事に
関する件
- ・主教との懇談を継続するこ
ととした。
- 三、コロナ対応に関する件
- ・コロナ拡大は減少している
が樂觀視せず、一二月も一
月同様継続することとした。
- ・キリスト者医科連盟より発
行予定のガイドブック第二版
の活用について協議した。
- 四、教区会計・教会会計に関
する件
- ・コロナ禍の影響について注
視することとした。



常置委員会報告

臨時 十一月二三日

《協議事項》

- 一、第八一(定期) 教区会に
於いて選出された聖職常置委
員に、大町信也司祭、下澤昌
司祭、永谷亮司祭。信徒は、
大友宣さん、矢部幸子さん、
沖田京子さんが選出された。
- 二、常置委員長に大町信也司
祭、書記に沖田京子さんを
選出した。

被選主教に 笹森田鶴司祭

マリア・グレイス
一 一月三日の臨時教区会
で次期主教に選出されたマ
リア・グレイス笹森田鶴司
祭(東京教区)は、主教会
の同意を得て、二六日、主
教就任を受諾され、主教被
選者となりました。

今後、首座主教、主教
会、管区事務所総主事、東
京教区と協議して、主教接
手・就任式の準備がなされ
ます。

教区修養会報告

二月四日(土) 午後一時

半より、札幌キリスト教会に
て「二〇二一北海道教区修養
会」が開催されました。今回、

「アドベントの祈りと黙想」
と題して、植松功さん(東京
教区・聖マーガレット教会信
徒)をお招きし、オンライン
も用いた開催でした。

さいわい、陽もさす穏やか
な日で、予想を越えて多くの
参加者(六二名)が集いまし
た。遠く函館や旭川からの参
加者もありました。

教区宣教活動推進部長・
吉野暁生司祭の開催の挨拶
(ウエブを用い鉋路)からは
じまり、コロナ禍での開催と



黙想の大切さに言及されまし
た。つづいて植松誠主教から
ユーモア溢れる挨拶が続き、
植松功さんの聖歌、その歌声
とギターの音から黙想会はス
タートしました。

イエスさまが生まれる
イエスさまが生まれる
この暗闇を照らす光

植松功さんは問いかけま
す。「このアドベント、暗闇
を見つめましょう。一番大切
な自分の暗闇を。その暗闇に、
わたしの暗闇にイエスさまは
光となつて、お生まれになら
れたことを…」

約七〇分の黙想講話は、講
話に即した聖歌を共に歌いつ
つ聖性と靈性に充たされて進
行して行きました。

休憩をはさんで、二部はテ
ゼの祈りの形式での共同の祈
り。その中で植松誠主教から
メッセージを受けました。

サンチャゴ巡礼にたとえて
「最初、巡礼の出発では、あ
れもこれもと装備を多く携え
て出発します。しかし、巡礼
の旅の中で、必要なものを
捨てて行きます。そして巡礼



のおわり、ほんとうに必要な
ものを知ります。」と導入で
語られました。アドベントは
私たちにとって一番大切なお
方と出会う巡礼としての旅で
あることを再確認させていた
だくメッセージでした。

冬の陽の短さを感じなが
ら、光であるキリストを覚え
つつ、午後四時終了。

(文責・司祭池田亨)



▽岩見沢聖十字教会

一月三日、主教座聖堂札幌キリスト教会にて次期主教選出の選挙。畠山秀明兄が信徒代議員として出席。「引き続き真に霊的・福音的な主教様を選出されますように」と祈りつつ一票を投じる。

日曜日、HBCテレビの福音放送「ライフ・ライン」で数週間ごとに、教会案内のテロップが流れます。福音宣教の一助となりますように。

二八日、アドベントを迎えました。池田亨司祭司式による聖餐式。幼稚園でも聖誕劇やクリスマス会での出し物の練習が始まりました。

▽旭川聖マルコ教会

一月八日、松井督さん。二〇日、ペテロ尾形昭さんご

逝去。魂の平安とご家族に主のお慰めをお祈りします。

二八日植松主教さまの最後の公式巡回で、保育園の先生方も礼拝に出席、広谷いのりちゃんが幼児洗礼、広谷さやさん・野村学さんが洗礼堅信式を受けられました。主の導きと祝福がありますように。

礼拝後、矢部委員の司会で、主教様への今までの感謝とこれからの働きを祈って楽しい集いが持たれました。二五年間のお働きに心から感謝いたしました。

四日に保育園児の幼児祝福式が礼拝堂にてありました。子ども達のすこやかな成長をお祈りします。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

冬將軍の足音が忍び寄る降臨節前主日礼拝後、吉野司祭の呼びかけがありました。「今日はオリーブ会です。クリスマス準備の様々な作業が行われます。男性も含めてお手伝いをお願いします。」

この呼びかけに殆どの信徒が掃除やリースづくり、保育

園児達へのプレゼント包装などに精を出しました。

皆が一堂に会するのはほぼ一年一〇カ月振りに。(釧路の感染が収まっているとはいえ、対策が万全だったのはいうまでもありません)和気藹々と作業するのはまさに、祈禱書の感謝聖別「み子イエス・キリストの体である教会のうちに結び合わせ」を実感する時間となりました。

一方、頌栄保育園と教会の建て替え問題は課題が山積です。ただ嬉しいことに課題解決の第一歩となる保育園の建て替え工事の予定も決まり、駐車場擁壁工事も進捗がありました。教会の取壊し・建築に向けての検討も急ぐことに。今年のクリスマスは大忙しです。主よ、お導きを。

▽小樽聖公会

教区会の翌日、二四日の小樽の朝はドカ雪。教会と牧師館前では約三〇センチの重たい雪が積もって除雪もひと苦労でした。

一月一九日(日)午後二時より「小樽聖公会クリスマス・ジャズ！」が開催されることになりました。地元小樽のミュージシャンによる演奏でオンラインでも配信されます。礼拝堂内は席に限りがありますので、教会にお越しの際は「予約優先」とさせていただきます。詳しくは教会のホームページ

<https://otarusseikokai.webnode.jp>でご確認ください。

「小樽聖公会クリスマス・ジャズ！」が開催されることになりました。地元小樽のミュージシャンによる演奏でオンラインでも配信されます。礼拝堂内は席に限りがありますので、教会にお越しの際は「予約優先」とさせていただきます。詳しくは教会のホームページ

<https://otarusseikokai.webnode.jp>でご確認ください。

一月七日の主日、久しぶりに熊谷和彦・泰彦兄弟が夫人を伴って礼拝に出席されました。お母さんのまき子さんとの面会は短時間ならできるとのこと。お変わりのないご様子で何よりです。

▽新冠聖フランシス教会

二一日は「収穫感謝礼拝」。たくさん地の産物が献げられました。毎年の事ですが山田行子さんが丹精された大根とネギ、そして椎茸をみんなで分けていただきました。二度の教区会には小竹さんが出席。合間を縫って上京され、お嬢さん宅へ。コロナは少し小康状態なのでしょうか？

初雪の頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。七日は逝去者記念礼拝が行われました。一五日は、婦人会による教会内外の清掃が行われ、控室の窓もきれいな

▽帯広聖公会

七日は逝去者記念礼拝が行われました。一五日は、婦人会による教会内外の清掃が行われ、控室の窓もきれいな

準備も進んでいます。

二二日には「み言葉の分かち合い」が行われました。

二七日に、マーガレット近藤幸子さんが九六歳で天に召されました。長きにわたる信仰生活で多くのご奉仕をされた近藤さんの魂が、永遠に平安でありますように祈ります。

▽稚内聖公会

一月一七日(水)、植松主教様の巡回をいただき聖餐式をお捧げいたしました。植松主教様の巡回はこれが最後となりましたが、いつも道北のこと、稚内のことを気にかけてくださり感謝でいっぱい。礼拝後には教会の凍結予防の作業も一緒にしてくださいました。

第八一(定期)教区会では「稚内聖公会(伝道所)」設立が決議され、宣教の歩みが新しく始まりました。引き続きお祈りを願います。

クリスマス礼拝は一二月二二日(水)一〇時から。伝道所として最初のクリスマスです。ぜひお越しください。

▽札幌キリスト教会

北大の鮮やかな紅葉も、寒々しい風景に代わりました。一月より礼拝の中で聖歌を唄える事に喜びです。

一二日、山岡みゆきさんのお母様ナオミ三嶋イネさんがご逝去。魂の平安をお祈り致します。二七日、エミリー大友

美奈子さんの逝去二年の記念式が行われ、植松主教の司式で五〇人余りの参加者が美奈子さんを偲びました。二八日、降臨節を迎え、子どもたちが制作したアドベントクランツ

が備えられ、礼拝後には教会各所に飾り付けが行われ賑やかな声で満たされました。

▽苫小牧聖ルカ教会

苫小牧聖ルカ教会聖堂が建築されて六〇年が経過しまし

た。七日に聖堂建築六〇年を祝う礼拝を行いました。「六〇年の歩み」をつづった資料を配布しました。永年、信徒に安らぎの場を与えてくれたことに心から感謝しています。

同日、逝去者記念礼拝も行い、一人ずつ名前を読み上げ、故人を想い祈りを捧げました。

二二日、クリスマスに向けて聖堂の飾りつけを行い、子どもたちと共にツリーに電飾を付けました。二八日「聖ルカ味噌」の袋詰めをしました。

ご希望の方は司祭までご連絡ください。コロナ禍における一年でしたが、全てに感謝です。

▽札幌聖ミカエル教会

一月七日、幼児祝福式を行う。祭壇の前に進んだ未就園の子どもたちの姿に、神様の祝福と、教会に与えられた

希望を思い、喜びの笑みがこぼれました。幼稚園の新園舎の工事はいよいよ二階部分に達し、何となく全容が把握可能になってきました。サー

バーを担当する中高生の成長著しく、式服と靴が不足し、

調達することとする。中高生会エンジェルウイングズが二年ぶりに再開、今後の活動を大いに期待します。長年教会生活を共にしたアンデレ斎藤

誠さんの逝去が伝えられ、また一五日にはフランシス林信行さんが天に召されました。神様のみ光と平安のうちに憩

われますように。降臨節第一主日、静かな装いをもってご降臨の準備を始めました。

▽新札幌聖ニコラス教会

二二日、植松主教最後の公式巡回日に上平更司祭の牧師任命式、菊池翔太兄の堅信式

が行われ、多くの恵みが分かち合われた。主様ご夫妻のためにマリア会からはニコラス銘菓「ごませんべい」とお花をプレゼント。この日のために教会員から集めていた

「手形の葉」を連ねて、「ニコラスの樹」をホールに設置。これからもたくさん手が繋がる樹となりますように。

▽函館聖ヨハネ教会

一月一四日は植松主教在任最終のご巡錫日。主教ご夫妻とともに、収穫感謝、高

齢者・子ども祝福式を行う。二五年の長きに亘るお働きに感謝し、集合写真のあとは、婦人会の心尽くしの昼食を久し振りに楽しむ。

二七日、恒例のアドヴェント準備会。クランツやリース作り、聖堂内外の掃除。聖堂外壁にもリースを飾り、遠く

からも見ることが可能。いづもながら丸山兄の身軽な作業ぶりに脱帽感謝。

二八日、クリスマス・ミニ

バザー終了。三〇日、笹森司祭、主教受諾の報を受け大きな喜びに満たされる。

▽平取聖公会

七日(聖霊降臨後第二四主日)は本年度の「逝去者記念聖餐式」でした。毎年「諸聖徒日」後の主日にお献げして

います。バチラー師をはじめ、歴代の聖職・信徒の霊の平安を祈りました。

RS感染症、ご存知ですか?このところ、バチラー保育園の子どもたちのお休みが多くなっています。風邪症

々な頑張つてクリスマスお祝い会の練習に余念がありません。今年も二度の土曜日に分かれて、お家の方にも来ていただいで行われます。

▽網走聖ペテロ教会

一月に入り花の鉢を礼拝堂二階に上げ、花壇は冬仕舞い。二月からの駐車場除雪

契約を終えました。二二日は収穫祭。礼拝堂や玄関ホールを高津家庭園のツルウメモドキ・アケビ・ブドウ等で飾り、豚汁といなり寿司を皆で頂きました。一九日のみことばの

礼拝では浜本亜矢子姉が、洗礼を受け三年になる今を証されました。降臨節に入り、

台町林家の裏庭で程良く育ったオンコをツリー用に堀切、玄関ホールに設置。ファミ

リーホームの子ども達とで、飾り付けをしました。

▽有珠聖公会

一月二四日(二六日)にかけて、参道の街路灯と、教会堂・歌碑のライトアップのための工事が行われました。一二月一八日の夕刻には、ライトアップの点灯式が、有珠

聖公会と伊達市観光局との共催で行われる予定。ゲストに札幌よりバイオリニストの斉藤航さんをお迎えします。

一月二十八日、降臨節第一

主日の聖餐式を捧げました。礼拝後は、笹森田鶴主教被選者についての話題が尽きませんでした。一月十九日に予定する降誕日礼拝と祝会について話し合いました。

▽留萌キリスト教会

温暖傾向で始まった一月

月。一四日は金岩美穂子さんの願により、金岩光さん、金岩昭美さんの逝去記念式を主日礼拝後に行いました。孫の田中泉さん夫婦と、今年誕生した碧ちゃんが出席されました。

名寄から通う藤井さん夫婦は二八日の礼拝を最後に、復活祭まで冬期のお別れ。農業の小林さんは畑の作業を終えて冬の引越しを進める中、寄る年波が押し寄せる上に急な大雪に覆われました。それでも力を合わせて頑張る老夫婦に、神の御守りを祈ります。

▽紋別聖マリヤ教会

寒さが厳しくなり雪が舞う

季節になりました。冬到来です。一月三日、次期教区主教を選挙するための臨時教区会が札幌キリスト教会で開かれ、教会からはエリックソン久美子さんが出席されました。笹森田鶴司祭(東京)が当選されました。一月七日、

主教さんによる聖餐式が行われました。一月二二、二三日、第八一回教区会が札幌で開催されました。

北海の光一二月号の二ページに「福音と私」エリックソン久美子さんの証しがあります。お読み下さい。

▽深川聖三一教会

一月三日、二二、二三日の教区会に佐々木佳三信徒代議員出席す。保育園の礼拝、光の子の時間を一日二四日に行い、サンタ・ニコラス主教が娘の嫁入り資金をくつしたに入れてあげた故事をふまえ、教会から園児全員のくつしたに贈り物をする。二六日から業者により除排雪が始まる。昨年の経費一七万円也。悲鳴。二二日、仙台基督教会

より越山泉さんの教会籍を受籍す。この教籍五〇年ぶりに母教会に帰還しました。二八日、窓の防雪柵が佐々木佳三さんにより取り付けられる。感謝。

▽北見聖ヤコブ教会

全逝去者記念礼拝・収穫感謝礼拝を一月七日に行いました。主の御許に召された方々一人ひとりの名を読み上げ、偲び、魂の平安と永遠の光明を祈りました。また、祭壇前に多くの収穫物が捧げられ、私たちに豊かな収穫をお与えくださる神に感謝をお捧げいたしました。

ご高齢の方々が多く、司祭の訪問の際には将来のことを率直に語り合うこともありま

す。安心して日々を過ごすことが出来ますように。少し遅くなったのですが、二五日に委員の方々の聖公会手帳を頼むことが出来ました。

た。▽聖マーガレット教会 一月七日(日)。全逝去者記念聖餐式を執り行う。昨年一〇月以降、逝去された七

名の方のタブレットを逝去者記念プレートに付ける。主を信じて世を去った者の魂が、主にあつて安らかでありますように。

一四日(日)、ハンナ香山チエさん、老健施設にて、ご逝去。一五日、一六日と、一般斎場にて葬儀。樺太においての高等女学校時代の思い出、戦後の苦労話をお聞きしたことを思い出す。

二七日(土)アドベントの最終的な準備を行う。▽今金インマヌエル教会 一月一四日の収穫感謝礼拝は、植松主教様最後の巡錫日という事もあり感慨深い集いとなりました。春に主様より祝福された種が実を結び、沢山の神様の恵みを持ち寄る事が出来、改めて見守りの中に居ると実感しています。そして、二年ぶりの祝会は奮発したお弁当で、楽しい時はあつという間に過ぎ、名残惜しくも締め括られました。二八日は礼拝六時間前から集い、大掃除に境内地整備とXマス準備作業に加え、山

崎秀志郎さんのご厚意によりトイレ外灯の配線、取付をして頂いた事にも感謝!!

▽室蘭聖マタイ教会

三日、臨時教区会に参加。聖餐式後主教選挙が行われ、候補者三名、一〇回目の選挙で決定する。

一四日、松井司祭来会。日キの山岸姉、幌別在住の落合さん、聖マーガレット教会信徒千田忍姉、高橋とり姉がおいでになり、共に聖餐にあずかり、礼拝後皆で聖書輪読会、久し振りの交わりに感謝です。その後委員会でクリスマス、館内の清掃、総会の事等話し合う。

降臨節第一主日、大町司祭御夫妻来会。札幌聖ミカエル教会信徒出町勇人さん、北大生の川那部悠さんが一緒においでになり、共に聖餐にあずかりました。

寒くなり、水回りの凍結に注意、水落とし確認し合う。

